



ふじさんネットワーク

FUJISAN
NETWORK

URL <http://www.fujisan-net.gr.jp/>

VOL.28



越前岳より

富士山憲章(行動規範)

1. 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
1. 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
1. 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
1. 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
1. 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県

目次

Contents

1. 富士山憲章制定10周年記念「自然観察会」
2. 富士山憲章制定10周年記念フォーラム
3. 富士山世界文化遺産登録に向けて
4. 「富士山ポエム大賞」最優秀作品紹介

1 富士山憲章制定10周年記念自然観察会

富士山憲章制定10周年記念事業として、富士山の自然に触れる4種類の自然観察会を開催しました。その様子をご紹介します。

富士山の水を巡る～柿田川の湧水を巡る～

日時：平成20年10月5日(日) 場所：柿田川公園(駿東郡清水町) 一般参加者:33名
案内：(財)柿田川みどりのトラスト、柿田川自然保護の会

柿田川公園を散策しながら、富士山の水の恵みに触れる自然観察会を行いました。



遊歩道を歩きながら

美しく澄んだ柿田川の流れを眺めながら、アオハダトンボ・ミシマバイカモ・ヒンジモなど、そこに生息する様々な貴重な動植物を観察することができました。



第二展望台にて

富士山随一の湧水群である柿田川湧水の仕組みや、これまでの柿田川保全活動の取組経緯などが解説されたほか、県営取水施設「八幡取水場」の見学なども行われ、参加者の皆様も熱心に耳を傾けていました。



絶滅危惧種の解説(漆畑会長:写真中央)



参加者の様子(八幡取水場にて)

富士山の動植物を巡る～自然を支える小さな生き物たち～

日時：平成20年10月12日(日) 場所：富士山麓山の村(富士宮市) 一般参加者:52名

案内：富士常葉大学環境防災学部教授 山田辰美氏 ほか

富士山の豊かな自然を支える土壌生物に着目し、自然観察会を開催しました。

富士常葉大学の協力で設置した、富士山麓に生息する「ヒメボタル」の幼虫捕獲用トラップと森林土壌を回収し、土壌生物を観察しました。



森林土壌とトラップの回収

ヒメボタルの幼虫を始め、数多くの土壌生物が観察され、富士山の森の豊かさを実感することができました。



土壌中から生物を探す作業



山田教授による解説の様子

富士山の地質観察～様々な溶岩地形・地質を巡る～

日時：平成20年10月19日(日) 場所：五竜の滝、駒門風穴、白糸の滝ほか 一般参加者:23名

案内：静岡大学名誉教授 土隆一氏、国立科学博物館地学研究部 佐野貴司氏

富士山の火山活動が形成した様々な溶岩地形・地質を中心に自然観察を開催しました。

五竜の滝(三島市)、駒門風穴、御殿場口新五合目(御殿場市)、側火山カンス山溶岩(裾野市)、白糸の滝(富士宮市)を巡り、富士山の特徴的な地形・地質を観察しました。



五竜の滝での解説(写真右:佐野貴司氏)

火山活動による溶岩流の影響や歴史など、詳しい解説とともに、実際に目で見て観察することで、参加者の方々も富士山の特徴的な自然を十分学ぶことができました。



側火山カンス山溶岩



白糸の滝での解説(写真中央:土隆一氏)

富士山の森を巡る～秋の自然林を巡る～

日時：平成20年11月1日(土) 場所：富士山ふれあいの森林(富士宮市) 一般参加者:29名
案内：NPO法人富士山自然の森づくり、富士宮自然観察の会

富士山の豊かな自然の中を散策しながら、富士山の森の様子を観察しました。



西臼塚駐車場に集合

西臼塚駐車場付近の、国有林内にある「富士山ふれあいの森林(もり)」を散策しながら、秋の自然林や人工林の様子を観察しました。



「森の話」の様子

紅葉が美しい自然林の中で、樹木の解説などのほか、ドングリ拾いなども行いました。また、自然林復元活動の取組や、シカ食害の影響など、富士山の森の現状を「森の話」としてわかりやすく解説するなど、参加者の方々も興味深く耳を傾けていました。



ブナのドングリ拾い



自然林復元活動の解説
(写真中央奥:仁藤理事長)

今回の自然観察会は「ピンバッジ募金事業」として、皆様の浄財とふじさんネットワーク会員の御協力により無事開催することができました。参加者の方々からも多くの感謝の声が寄せられ、「富士山憲章」の趣旨でもある「富士山の自然を学び親しむ」ことができる企画として開催できたものと思います。天候にも恵まれ、全4種類の自然観察会が無事開催できたことを心よりお礼申し上げます。御協力ありがとうございました。

2 富士山憲章制定10周年記念フォーラム

富士山憲章が制定10年目を迎えた平成20年11月18日に、静岡・山梨両県の主催による記念フォーラムが開催されました。

場所：ハイランドリゾートホテル バンケットホール「富士」(山梨県富士吉田市)

●オープニング

映像でふりかえる「富士山憲章10年のあゆみ～美しい富士山を未来の子どもたちへ～」

オープニングでは、トイレ整備や清掃活動、自然林復元活動など、富士山憲章制定後の10年間の取組が映像で紹介されました。



●「富士山憲章功労者」「富士山ポエム大賞」表彰

富士山憲章の普及啓発と環境保全活動に貢献のあった方々(4団体・2個人)が「富士山憲章功労者」として表彰されました。

また、富士山への想いを詩に表現した「富士山ポエム大賞」入賞者(最優秀賞1名、優秀賞4名)が表彰されました。



「富士山ポエム大賞」最優秀賞表彰
(横内正明山梨県知事より)

<富士山憲章功労者>

(静岡県関係)

- 土隆一氏(静岡大学名誉教授)
- NPO法人富士山自然の森づくり
- 住友林業株式会社

(山梨県関係)

- 野口健氏(アルピニスト)
- (財)富士山をきれいにする会
- 富士山吉田口環境保全推進協議会

○パネルディスカッション

富士山の恵みを永遠に引き継ぐ～過去、現在、そして世界遺産へ～

パネルディスカッションでは、10年の歩みを振り返ったほか、世界文化遺産登録も含めた今度の課題について、意見交換がされました。

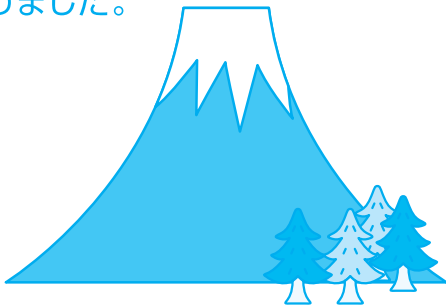
<パネルディスカッション出演者>

- 新井 満(作家)
- 小俣雅子(フリーアナウンサー)
- 野口 健(アルピニスト)
- 古田陽久(世界遺産総合研究所所長)
- 山田辰美(富士常葉大学教授)
- 山本清瀧(東京大学大学院助教)<コーディネーター>



○エンディング 「富士山憲章唱和」

エンディングでは、川口正俊静岡県副知事の閉会挨拶のあと、正面に雄大な富士山を望みながら、これからの富士山環境保全のより一層の推進を決意し、参加者全員で「富士山憲章」を唱和して閉会となりました。



平成20年12月7日(日)には、ふじさんネットワーク主催により、「富士山憲章制定10周年記念シンポジウム」が三島市民文化会館にて開催されました。

シンポジウムの様子は、次号(Vol.29、平成21年3月発行予定)で詳しく紹介いたします。

3 富士山の世界文化遺産登録に向けて

静岡県からのお知らせ

『富士山世界文化遺産国際シンポジウム』を開催しました

富士山の世界文化遺産登録実現のためには、富士山に世界文化遺産にふさわしいすばらしい価値（以下『顕著な普遍的価値』という）があることを証明する必要があります。

富士山の『顕著な普遍的価値』つまり、富士山が象徴する「なにか」を探るために、国内外から世界遺産専門家を招へいし、国際シンポジウムを開催しました。



【クリスティーナ・カメロン氏】



【ノーラ・ミッチェル氏】

また、国内からは「紀伊山地と霊場の参詣道」の世界文化遺産登録に尽力された田中利典氏（金峯山修験本宗宗務総長、金峯山寺執行長）静岡県学術委員会委員の稲葉信子氏（筑波大学大学院教授）の2氏を招へいしました。

海外からは、「第32回世界遺産委員会」で議長を務めたクリスティーナ・カメロン氏（モントリオール大学教授）、富士山の世界文化遺産登録の重要キーワードである「文化的景観」に造詣の深いノーラ・ミッチェル氏（バーモント大学客員准教授）の2氏を招へいしました。



【田中利典氏】



【稲葉信子氏】

国際シンポジウムで貴重な意見・提言をいただいたので、その内容を紹介します。

富士山の象徴性

- ・日本人が自然に対し抱いてきた「自然観」「自然に対する畏怖」「神仏に対する神聖な思い」これらすべてが富士山に集約されていること

富士山の価値

- ・「富士山」という自然に「信仰」「芸術性」といった文化が反応している点（このことが、ユネスコの「評価基準」の「(iii) 文化的伝統の物証」「(vi) 信仰・芸術との強力な関連性」に該当すると思われること）

富士山の保存管理

- ・「関係者の協力体制」「観光産業の管理」「関係者全員の『世界遺産を守る担い手(第一の門番)』としての自覚」の3点が大切なこと

富士山への提言

- ・富士山の世界文化遺産登録に向けた取り組みが『日本人が失いつつある「信仰心」「自然観」を取り戻すきっかけ』となれば、大きな意義があること
- ・世界遺産登録は「ゴール」でなく、私たちの富士山の保護・保全の「スタート」であること



パネルディスカッションでさまざまな意見・提言がなされた



会場は約300人の参加者の熱気に包まれた



シンポジウムの開催に先立ち「柿田川」などの資産候補も視察

今後の取り組み

今回いただいた意見を基に、現在選定されている構成資産候補について、「信仰」「芸術性」の観点から幅広く綿密に、改めて調査・検証を行い、世界遺産委員会に対して説得力のある「世界遺産推薦書原案」を作成します。

4 「富士山ポエム大賞」最優秀作品紹介

「富士山ポエム大賞」(応募総数359篇・315人)の頂点に輝いた最優秀作品を御紹介します。

「富士山が見える」

塚越 文子(埼玉県)

(静岡市出身)

とびつきり冷たい朝だから
きようは富士山がよく見える
驚くほどくつきりと見える
あのお山の向こう側にあるのは
とびつきりの私の故郷だ

そんな富士山の近くにありながら
故郷からは富士山が見えない
南アルプスへと連なる山々が
村をすっきり取り囲んでいて
山また山の峰ばかりが
視界の先を遮っているからだ
幼い日の私にとって富士山といえば
仏間の鴨居に掛かった額絵にある
只々美しいだけの山にすぎなかった

ある日

山仕事に行くという父に連れられて
獣道のような坂を登った
コナラやクスギの雑木は葉を落し
明るい冬の日差しが
黒いスック靴に射し込んでいた
父は棒つ切れを手にして
この谷川が…
あの大きなカヤの木が…
ホレ、そここの窪みが…
あの杉山の峰が…
自分の山と他人との境界の目印だ
などと
白い息を吐きながら話しかける

私はといえば
崩れかけた道の斜面に
ほの青い礫石の欠片をひろったり
椿の小枝を手折ったり
目白の番いを目で追ったりしながら
息を弾ませていった

突然、先を行く父が足を止めた
慌てて顔を上げると
この眼に飛び込んできたのは

どてっかい富士山の頂だった
果てしない青空を背にして
真っ白に雪化粧したその姿 まるで
白い髪を垂らしたダイラポッチが
突然スーッと覗き込んできたように
そのあまりにも衝撃的な山頂の姿に
私は立ちすくんだ
父は私の顔を覗きこんで
どうだ、すこいだろうと
満足そうに笑っていた
それが、富士山と私との出会いだった

あれから何度眺めたことだろう
遠足に行った山の上から…
静岡の美しい町並みの向こうに…
女子高の教室の窓から…
昼休みの職場の屋上から…
東京に嫁ぐ新幹線の窓から…
そして今、
遠く埼玉の地から望めるのは
秩父連山の彼方にみえる
晴れた冬の日の富士山だ

「富士」は「不死」であり

「不尽」とも呼ばれていたという
幾多の噴火を繰り返しながら
その高さゆえに 美しさゆえに
永遠の命の象徴として

常に人々のあこがれだった
「福地」と呼んでは豊かさを
「富慈」と呼んでは優しさを
「不慈」と呼んでは厳しさを
「不二」と呼んでは

その美しさに畏敬の念を抱いている
日本列島を眺めて見れば
あまねくお富士さんが翻した
衣の裾であったとでもいうように
羨望を集めて 夏も冬も
私たちの心を捉えて放さない

富士山には登って見るのがいい
三百六十度パノラマの
雲海の中に立つて見るのがいい
比類稀なる富士山であり続けるために
山肌を転がり落ちる火山岩の欠片を
吹き上げ 吹き上げようとするのを
エクボのような雪渓に
天をも恐れぬ先人たちの足跡を
閉じ込めておこうとするのを
穏やかな表情で

己の広げた衣の裾の隅々まで
見守るかのような雄大な富士の姿を
だが恐れよ！
地中に今も眠りつづけている
巨大なマンモスたちが記憶しているのは
激しく吹き上がる噴煙と
灼熱の溶岩を容赦なく降り注いだ
荒々しい山の勇姿なのだ

繰り返し培われた天地の営みと
あらゆる自然の驚異の中で
命が芽生え 命が減び
長く 激しく 美しく 哀しく
そして何万年…

今、富士山は深い眠りのなかにいる
見つけてきたことを
遣り続け 遣り残してきたことを
語るでもなく 驕るでもなく
怒るでもなく 飽くでもなく
ただこんこんと湧き出る命の水を
惜しげもなく与え続け

奥深い樹林にはひっそりと
あまたの生命を宿しているのだ
そんな富士山を 私たちは
心ならずも欺いていないだろうか
恥ずべき行為で報いていないだろうか
謝すべき言葉を忘れていないだろうか
そここに浮かぶ小鳥のつを
静まり返った火口にボイと放り込む
そんな恐れを知らぬ大胆不敵を
共に許していないだろうか
そうでなければいい
そうでなければ 富士山もまた
マンモスと共にあった頃のように
のびのびと自由気侖な己に戻りたいなどと
思うこともないだろうか
たぶん…

霜枯れた関東平野の彼方に
まさかと思えるほどくつきりと
亡母と同じ名前の山がそびえている
刈田の株根に伸びた か細い葉に
赤城風の空つ風が吹き渡っていく
だから
あすの朝も美しい富士山が見えるだろう
いや、きつと見える



2008年12月 vol.28

編集・発行 / ぶじさんネットワーク事務局

静岡県環境局自然保護室内

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 電話054-221-3776 ファックス054-221-3278

E-mail 3776fuj@pref.shizuoka.jp URL http://www.fujisan-net.gr.jp/

ぶじさんネットワーク

- 設立 平成11年10月23日
- 会長 土 隆一
(静岡大学名誉教授)
- 会員数 412団体・個人
(H20.11.30現在)